

科目基本情報

分類	選択必修	授業科目名	美容総合技術と実習
授業時間数	1コマ(45分)×600コマ	授業単位数	20単位
配当年次	1年次、2年次	授業方法	実習・実技
担当教員	林邦子、笹原成子、神田智子、橋本夏美、川上 藍 清水理恵子、齊藤かおり、原 梢、阿部 憲夫、本吉 遥		
実務経験の有無	美容師免許取得後、実務経験4年以上		

科目詳細情報

到達目標	<p>必修課目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度な専門知識や技術を身につける。</p> <p>科学的基礎に裏付けられた高度な美容技術を確実に実施する能力を身につけ、これを応用して新たな技術を開発するための総合的能力を習得する。</p>
教科書・教材	<p>発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集</p>
授業内容・計画	<p>基礎的な知識・技術を活かした応用技術やより高度な専門的技術 各種バリエーション・スタイル展開など ヘアカット(応用・実践) カラーリング(応用・実践) ワインディング(応用・実践) ヘッドスパ(応用・実践) アシスタント業務(応用・実践) アップスタイル(応用・実践) ヘアアレンジ(応用・実践) 着付け(応用・実践) メイク(応用・実践) ネイル(応用・実践) まつ毛エクステンション エステティック ブライダル技術 トータル実習・実務実習(インターンシップ) マナー接遇・接客技術 キャリアデザイン 造形デザイン・ヘアデザイン 特別セミナー(各種技術) 美容国家試験実技課題 第一課題 カットイング 第二課題 ワインディング 第二課題 オールウェーブセッティング 総合実践技術実習(応用・実践)</p>
授業実施方法	<p>講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 (関連科目)美容技術理論、美容実習</p>
試験実施方法	<p>学期末試験 ・筆記試験(レポート課題等含む) ・モデルウィックもしくは相モデル(人頭モデル)による実技試験</p>
成績評価方法	<p>試験において60点以上を合格とする。 60点未満の場合は追試験を受け、その結果により評価する。</p>

科目基本情報

分類	必修	授業科目名	美容実習
授業時間数	1コマ(45分)×900コマ	授業単位数	30単位
配当年次	1年次、2年次	授業方法	実習・実技
担当教員	林邦子、笹原成子、神田智子、橋本夏美、阿部憲夫		
実務経験の有無	美容師免許取得後、実務経験4年以上		

科目詳細情報

到達目標	<p>美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に、さらにその操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を身につける。</p> <p>サロンにおける衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法を身につける。</p> <p>お客様の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身につける。</p>
教科書・教材	<p>発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集</p>
授業内容・計画	<p>器具の取扱実習 ・器具の操作、消毒、手入れ方法、用途に適した選択方法</p> <p>基礎技術実習 ・技術を行う場所の位置、姿勢、基本動作、清掃、消毒などの衛生管理</p> <p>頭部、顔部及び頸部技術実習 ・スカルプトリートメント、ヘアトリートメント、ヘアシャンプー・ヘアリンス技術、ヘアカッティング、パーマウェーブ、ヘアセッティング、ヘアカラーリング ・メイクアップ、まつ毛エクステンション等</p> <p>特殊技術実習 ・エステティック技術、ネイル技術</p> <p>和装技術実習 ・日本髪のかぶり技術、かつら、着付け技術</p> <p>総合実習 ・頭部、顔部及び頸部技術、特殊技術を組み合わせることで調和のとれた美容技術を完成させる</p> <p>実務実習 ・管理美容師を配置する美容所において美容師の適切な指導監督の下、美容行為及びその附随する作業をおこなう実践的な技術を修得する</p>
授業実施方法	<p>講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 (関連科目)美容技術理論、美容総合技術と実習</p>
試験実施方法	<p>学期末試験 ・筆記試験(レポート課題等含む) ・モデルウィックもしくは相モデル(人頭モデル)による実技試験</p>
成績評価方法	<p>試験において60点以上を合格とする。 60点未満の場合は追試験を受け、その結果により評価する。</p>

科目基本情報

分類	必修	授業科目名	運営管理
授業時間数	1コマ(45分)×30コマ	授業単位数	1単位
配当年次	1年次、2年次	授業方法	座学
担当教員	笹原成子、林不二男、笹原正徳、神田 智子、阿部憲夫		
実務経験の有無	美容室法人本部 実務経験あり		

科目詳細情報

到達目標	<p>経営管理及び労務管理の基本的事項を学習することによって、美容業における運営管理手法の重要性を認識させ、美容所の運営に役立たせる。</p> <p>美容業において、適切な接客態度の重要性と消費者対応の基本を学び、実践する能力を身につける。</p>
教科書・教材	<p>発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集</p>
授業内容・計画	<p>経営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営戦略及び経営管理の基本的理論</li> <li>・美容所の運営に必要な経理事務</li> </ul> <p>労務管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労務管理の基本的理論</li> <li>・社会保険、雇用保険の仕組み</li> </ul> <p>接客</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としての一般常識</li> <li>・美容業における接客の意義と技術について</li> <li>・苦情処理など消費者対応の基本事項</li> </ul>
授業実施方法	<p>講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 グループワークによる学習形式とプレゼンテーション</p>
試験実施方法	<p>学期末試験 筆記試験</p>
成績評価方法	<p>試験において60点以上を合格とする。 60点未満の場合は追試験を受け、その結果により評価する。</p>

科目基本情報

分類	必修	授業科目名	美容技術理論
授業時間数	1コマ(45分)×150コマ	授業単位数	5単位
配当年次	1年次、2年次	授業方法	演習・実習
担当教員	林邦子、笹原成子、神田智子、橋本夏美、阿部憲夫		
実務経験の有無	美容師免許取得後、実務経験4年以上		

科目詳細情報

到達目標	美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力を身につける。 美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術を理解する。 優れた美容技術を身につけるために、科学的合理的な方法を学ぶ。
教科書・教材	発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集
授業内容・計画	美容で使用する器具 ・美容で使用する主な機械器具についての物理の基本事項 ・人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴 ・ヘアドライヤー、ヘアスチーマー、ブラシ、被布及び布片類についての種類、使用目的、形態と機能、手入れ方法 ・美容に用いられる電気器具類、備品類、容器類などについての種類、使用目的、形態と機能、選定方法、基本的操作方法、使用上の注意、保守管理の方法 基礎技術 ・美容技術の意義、心得、必要な人体各部の名称 ・技術者の位置と姿勢、身体の機能その他美容技術の基礎知識 頭部、顔部及び頸部技術 ・スカルプトリートメント、ヘアトリートメント、ヘアシャンプー・ヘアリンス技術、ヘアカッティング、パーマントウェービング、ヘアセッティング、ヘアカラーリングなどの目的、種類、特徴、技術上の注意点 ・メイクアップ、まつ毛エクステンションなどの目的、種類、特徴、技術上の注意点 特殊技術 ・エステティック、ネイル技術などの美容の特殊技術の目的、種類、特徴、技術上の注意点 和装技術 ・日本髪の基本知識、技術の実際、かつらの種類、あわせ方、かぶせ方 ・和装に関する一般知識、着付け技術 美容デザイン ・美容におけるヘアデザインの造形の意義とその応用 ・色彩の原理と美容における応用
授業実施方法	講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 (関連科目)美容実習、美容総合技術と実習
試験実施方法	学期末試験 筆記試験
成績評価方法	試験において60点以上を合格とする。 60点未満の場合は追試験を受け、その結果により評価する。

科目基本情報

分類	必修	授業科目名	文化論
授業時間数	1コマ(45分)×60コマ	授業単位数	2単位
配当年次	1年次、2年次	授業方法	座学
担当教員	笹原 成子、神田 智子、阿部 憲夫		
実務経験の有無	美容師免許取得後、実務経験4年以上		

科目詳細情報

到達目標	<p>美容業の使命一つである「より優れた人間美の創造・実現」を達成するために必要な美的感覚を身につけ、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う。</p> <p>美容の業務を全うするために、確かな技術力を身につけるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養う</p>
教科書・教材	<p>発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集</p>
授業内容・計画	<p>美容文化史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容文化の歴史及び沿革について</li> <li>・我が国における美容ファッションの変遷</li> <li>・海外における美容ファッションの変遷</li> <li>・流行を追う心理、及ぼす社会的影響、美容業において占める意義と役割</li> </ul> <p>服飾</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服飾の原理、美容における服飾の意義について</li> <li>・服飾の歴史、衣服の種類、衣服に関するエチケットについて</li> </ul>
授業実施方法	<p>講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 グループワークによる学習形式とプレゼンテーション</p>
試験実施方法	<p>学期末試験 筆記試験</p>
成績評価方法	<p>試験において60点以上を合格とする。 60点未満の場合は追試験を受け、その結果により評価する。</p>

科目基本情報

分類	必修	授業科目名	香粧品科学
授業時間数	1コマ(45分)×60コマ	授業単位数	2単位
配当年次	1年次、2年次	授業方法	座学
担当教員	笹原 成子、瀬戸 祥弘、井上 大輔、鈴木 美由紀		
実務経験の有無	美容師および薬剤師 実務経験あり		

科目詳細情報

到達目標	<p>香粧品を正しく使用するための正確な知識と適正な技術を身につける。</p> <p>香粧品の正確な科学的知識と合理的な取り扱い方法、香粧品による危害を防止するための使用方法を学ぶ。</p>
教科書・教材	<p>発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集</p>
授業内容・計画	<p>香粧品概論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香粧品の規制について</li> </ul> <p>香粧品原料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水性原料</li> <li>・油性原料</li> <li>・界面活性剤</li> <li>・高分子化合物</li> <li>・色材</li> <li>・香料</li> <li>・防腐剤、殺菌剤</li> <li>・酸化防止剤 抗酸化剤</li> <li>・保湿剤 湿潤材</li> <li>・紫外線吸収剤 収れん剤</li> </ul> <p>基礎香粧品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚清浄用香粧品 化粧水</li> </ul> <p>頭皮・毛髪用香粧品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャンプー剤 スタイリング剤 パーマ剤 ヘアカラー</li> </ul> <p>芳香製品と特殊香粧品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芳香製品 特殊香粧品 美白香粧品 制汗、防臭剤</li> </ul> <p>香粧品の取り扱い</p>
授業実施方法	<p>講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 (関連科目)美容実習、美容総合技術と実習</p>
試験実施方法	<p>学期末試験 筆記試験</p>
成績評価方法	<p>試験において60点以上を合格とする。 60点未満の場合は追試験を受け、その結果により評価する。</p>

科目基本情報

分類	必修	授業科目名	保健
授業時間数	1コマ(45分)×90コマ	授業単位数	3単位
配当年次	1年次、2年次	授業方法	座学
担当教員	笹原 成子、瀬戸 祥弘、井上 大輔 泉 理美子、白井 淳資		
実務経験の有無	薬剤師および看護師ならびに獣医師 実務経験あり		

科目詳細情報

到達目標	<p>美容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得する。</p> <p>美容の業務を安全かつ効果的に行うために、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識を理解する。</p>
教科書・教材	発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集
授業内容・計画	<p>人体の構造及び機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体各部の名称並びに頭部、顔部及び頸部の解剖学的特徴について</li> <li>・美容の施術の際に使う骨格及び筋について種類、構造及び機能について</li> <li>・人体(頭部、顔部及び頸部)の骨格、筋の種類、構造、及び神経機能の仕組みについて</li> </ul> <p>皮膚及び皮膚付属器官の構造及び機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚、皮膚付属器官(毛髪、爪、脂腺、汗腺等)の構造について</li> <li>・皮膚の生理的作用と美容との関係について</li> <li>・毛髪、爪の生理的意義と特性について、美容技術との関連について</li> </ul> <p>皮膚及び皮膚付属機関の保健衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚、付属器官の状態に影響を与える因子</li> <li>・皮膚、付属機関を健康に保つための方法について</li> </ul> <p>皮膚及び皮膚付属器官の疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚、皮膚付属器官の疾患の種類、原因、症状について</li> <li>・美容で使用する化粧品等によるかぶれ・アレルギーについて、その発生機序と予防法</li> </ul>
授業実施方法	講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 (関連科目)衛生管理、美容技術理論、美容実習、美容総合技術と実習
試験実施方法	学期末試験 筆記試験
成績評価方法	試験において60点以上を合格とする。 60点未満の場合は追試験を受け、その結果により評価する。

科目基本情報

分類	必修	授業科目名	衛生管理
授業時間数	1コマ(45分)×90コマ	授業単位数	3単位
配当年次	1年次、2年次	授業方法	座学
担当教員	笹原 成子、神田 智子、瀬戸 祥弘、井上 大輔 泉 理美子、白井 淳資、阿部憲夫		
実務経験の有無	薬剤師および看護師ならびに獣医師 実務経験あり		

科目詳細情報

到達目標	<p>公衆衛生の意義と本質を明らかにすることによって、美容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を担わなければならない理由を十分に理解する。</p> <p>美容師の業務内容と感染予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視し、美容における衛生措置の重要性について理解する。</p> <p>消毒法において、その意義と原理を十分に理解し、適正な実施方法を身につける。</p>
教科書・教材	発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集
授業内容・計画	<p>公衆衛生概説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生の意義、美容業との結びつき、公衆衛生の発展向上のためになすべきこと</li> <li>・公衆衛生の発展の歴史、及び公衆衛生の思想の発展について</li> <li>・公衆衛生における対人的な予防医学と対物的な環境衛生の大別について</li> <li>・保健所の機能、組織、業務など美容業との密接な関係について</li> </ul> <p>感染症</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容の業務を行う上での注意点及び、予防対策</li> <li>・衛生措置、消毒の意義について</li> </ul> <p>環境衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境衛生の意義と美容所における注意点について</li> <li>・美容所における採光、照明、換気、床などの構造設備及び、衣服の衛生について</li> <li>・美容所における廃棄物処理、環境保全対策について</li> </ul> <p>衛生管理技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容所における衛生管理、消毒の意義と目的について</li> <li>・消毒方法の種類、原理、特徴について</li> <li>・美容器具などの対象物の材質、構造などに応じた適切な消毒方法の選択と適正な実施方法</li> </ul>
授業実施方法	講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 (関連科目)美容技術理論、美容実習、美容総合技術と実習
試験実施方法	学期末試験 筆記試験
成績評価方法	試験において60点以上を合格とする。 60点未満の場合は追試験を受け、その結果により評価する。

### 科目基本情報

分類	必修	授業科目名	関係法規・制度
授業時間数	1コマ(45分)×30コマ	授業単位数	1単位
配当年次	1年次、2年次	授業方法	座学
担当教員	石田泰三		
実務経験の有無	実務経験なし		

### 科目詳細情報

到達目標	<p>美容師の業務に関する衛生及び消費者保護の法規・制度について正しい知識の習得と公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について理解する。</p> <p>美容の業務に関する規定内容を正確に理解すると共に、衛生法規が、美容業を行う場合の指針として有する意義を把握する。</p>
教科書・教材	<p>発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター</p> <p>関係法規・制度 美容師法関係法令集</p>
授業内容・計画	<p>衛生行政</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法律、政治、行政の役割、機能など衛生法規を学ぶために必要な基礎的事項</li> <li>・行政の仕組み、国の行政と地方の行政との関係</li> <li>・衛生行政の概要、目標、種類、意義</li> <li>・保健所の概要、任務や活動及び組織</li> </ul> <p>美容師法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容師法の沿革、目的、意義について</li> <li>・美容師法の用語と定義</li> <li>・美容師についての意義、免許制度、免許手続、免許の欠格要件、免許の登録</li> <li>・美容師試験についての意義、試験の内容及び受験の手続き</li> <li>・美容師養成施設について、その課程、教科課目</li> <li>・業務上の遵守事項、業務を行う場所などに関する法律</li> <li>・美容所の開設などの届出、施設の検査確認、美容所に関する規制の内容</li> <li>・管理美容師の業務、美容所閉鎖命令、美容師法の罰則について</li> </ul> <p>その他の関係法規</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活衛生関係営業の適正化及び振興に関する法律及び消費者保護関連法規について</li> <li>・美容師法以外の美容に関係のある法律</li> <li>・美容師法と理容師法の法令上の違いについて</li> </ul>
授業実施方法	講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。
試験実施方法	<p>学期末試験</p> <p>筆記試験</p>
成績評価方法	<p>試験において60点以上を合格とする。</p> <p>60点未満の場合は追試験を受け、その結果により評価する。</p>